

## 第4回上京区基本計画策定委員会摘録

---

日時：平成22年11月8日（月） 午後2時～午後3時15分

場所：ルビノ京都堀川3階朱雀の間

出席者：隴谷委員長、成瀬副委員長、安藤委員、大串委員、桶谷委員、小野委員、絹川委員、  
西川委員、山中委員、山本委員、吉川委員

欠席者：出野委員、大井委員、加藤委員、左近委員、高田委員、廣瀬委員

事務局：豊田区長、南区民部長、森福祉部長、大橋保健部長、矢島総務課長、浅野まちづくり推進課長、舟瀬支援保護課長、布野健康づくり推進課長、上京警察署中村生活安全課長、上京消防署伊勢警防課長、森川まちづくり推進課担当係長、中川総務課担当係長、浅田京都市まちづくりアドバイザー、亀村京都市まちづくりアドバイザー、山崎地域計画建築研究所所員

### 次第

- 1 開会挨拶
- 2 本日の議事進行について
- 3 議題
  - (1) ワークショップについて
  - (2) 市民意見について
  - (3) 第2章キャッチコピーについて
  - (4) 進捗管理と達成度指標について
  - (5) 今後の作業について
- 4 閉会挨拶

### 委員長挨拶

- ・久々の会議であるが、今日が最後の会議ということで皆さんから忌憚のないご意見を頂きたい。
- ・既に新聞報道等があったが、この11月1日にホテルオークラで京都市基本計画審議会の第二回目の総会が開催された。そこで、最終的な討議をした結果、この委員会の会長である尾池和夫先生から、門川市長の方へ答申された。
- ・市の方での動きとして、議会を通さないといけないので、それを受けて実際に運営されることになると思う。
- ・この審議会のメンバーは4つの部会に分かれていて、うるおい部会、すこやか部会、活性化部会、まちづくり部会という、それぞれ十数名の委員で構成され、活発な議論を交わしてきた。その時々には4つの部会の上に融合部会というのがあり、そこでも議論を重ねてきた。最終的には、この間の総会で結論を出したということである。
- ・これを受けて、市では議会の議決を経たのちに、運営していくことになる。そのことをご報告しておく。本日はよろしくお願いします。

## 議題

### (1) ワークショップについて

### (2) 市民意見について

## 委員長

- ・市民意見を全部吸い上げて、実現できれば素晴らしいまちとなると思うが、どこまで実現できるかだと思う。
- ・テーマとして、自治と地域力、まちの安心安全、福祉と健康、地域振興、あるいはそれらを幾つか組み合わせたものということで、総花的でこれ以上のものはないと思うが、何かご意見はないか。

## 委員

- ・25 頁のテーマ1の自治と地域力の取組例の一番右の欄にある市・区・地域の囲いのところと、それに関連して40 頁の計画の実現に向けてという第4 章のところで、以前は青字で実施主体については説明書きがあったが、それに二重線が引かれている。この囲いが少し、意味が分かり難いと思う。
- ・実施主体や取組時期を明確にするということで、委員長もおっしゃったが本当に出来上がったらすごいなと思う基本計画だと思う。それで、25 頁に戻り、地域というところだけにカッコが付いているのは、地域の独自の頑張りに任せるので、頑張りなさいという意味なのか、あるいは、区や市に印が付いていないけれども、支援するとあるじゃないですか、という意味なのか、どちらなのか。

## 委員長

- ・確かに分かり難い。どうなのか。

## 事務局

- ・事業の中心となる主体ということで囲いを付けている。

## 委員長

- ・3つ囲いがある場合は、三つとも協働で頑張りということか。

## 事務局

- ・その通りである。例えば、25 頁の方針1の取組で「地域との交流を促す取組の支援」の取組例として、「地域とマンションオーナー等との情報共有の仕組みづくり」とある。これは、3つ囲いが付いているが、市の方でも自治会加入率やコミュニティを活性化させようとする条例の制定の動きがある。また実際の話となると、区役所の方に情報が集まって来るし、それを地域の代表者の方に伝えることになる。そういったことで、市・区・地域に囲いが付いている。

## 委員長

- ・そういうことを言うと、取組で「地域同士の交流の促進」の取組例として、「町単位や元学区単位の自治活動だけでなく統合小学校区等、隣接する学区も含めた交流機会の確保」は地域だけで考えるのではなく、これこそ、市も区も関わるべきではないのか。これは地域が中心となつてあるものだという判断なのか。

## 事務局

- ・これを作成した時点ではそういう主旨ということである。

## 委員長

- ・学区制というのは上京区だけでなく、京都市全体に関わる問題ではないのか。

**事務局**

- ・例えば、中学校区くらいで色々な取り組みを進めていこうという事業も市の方にはある。そういう意味では、今、ご指摘のように市に囲いを付けていくということもある。

**委員長**

- ・この辺の囲いの有無がもう少しはっきりとした方がよい。

**委 員**

- ・区と市に囲いが無いのは、担当される方がおられないということではないか。

**委員長**

- ・いずれにしても、少し分かり難い。今のような説明を聞いてもここも付くのではないかというところがある。

**委 員**

- ・市・区・地域と三つ囲いが付いているところがたぶん優先課題として取り組んでいくという説明だとまだ分かりやすい。
- ・地域の囲いだけなのは、注視はしているけれども行政サイド、他の区レベルで予算措置等の手当てがされていなくて、優先順位の最重要課題から3つ囲いを付けていて、その次が2つ、そして1つということであれば分かりよいと思う。

**事務局**

- ・どちらかと言えば、そういうわけではない。本来、この区基本計画は、区役所と地域の方が、双方が主体となって作っていかうというのが基本的なスタンスとなる。
- ・そういう意味では、区基本計画の前提として市の基本計画があるので全てにおいて市が絡んでくることになるが、ここであえて市とあるのは、そういう視点で見た場合に、市の方でも並行して、例えば、先ほどのマンションの話では、マンションの条例の策定ということが進んでいるので、それで囲いを付けている。
- ・どちらかと言えば、市に囲いがあるのは、三つ付いているから優先ということではなく、区と地域が主体であるので、本来であれば区と地域に囲いが付いているのが普通で、市に付いているのはたまたま具体的な動きがあるものについて付けている。
- ・区と地域の違いについてだが、こういう計画を作ると基本的には区役所がするというのが従来の基本的な感覚だったと思うが、今回は、地域の方と区と一緒にということで、その中でも特に地域の方の動きに負うべきところが大きい部分について、区がやらないという意味ではなく、その部分を際立たせるという意味で、地域のところのみに囲いを付けている。
- ・ただ、区のまとめ方として囲いの付け方が違うというものがあれば、ご議論を頂ければと思う。

**委員長**

- ・この頁の5つ目のところは、囲いを付けた方がよいのではないか。

**事務局**

- ・スポーツ少年団のところは付けたいと思う。

### (3) 第2章キャッチコピーについて

#### 委員長

- ・標語案については21頁に4案まとめている。「千年の営み 知恵と文化を活かすまち 上京」「先人の知恵と絆で新しい力を織りなすまち」「はんなり上京 とともに織りなす 雅で住みよいまち」「町衆の知恵と絆に 新たな力が響き合うまち」という4案ある。この中から一つを選ぶということだが、他にあれば出してもらいたい。この辺のご意見を頂きたい。
- ・キャッチコピーについては、この計画をちゃんと読んだ方が、イメージしやすい言葉が良い。それでいくと、2番目などは言葉が難しくイメージ付きにくいのではないかなと思う。同じことでも1番目の方がよいと思う。
- ・一般の方が読んでどう感じるかという点で、忌憚のないご意見を頂ければと思う。

#### 委員

- ・どれもこれだというものではない。区長の話にもあったように、地域と区が一緒になって取り組むということを盛り込みたい。これまでテーマについては自治や地域力というのがあったが、それは上京区でなくとも他所でも似たり寄ったりのことが進められていると思う。けれども、キャッチコピーについては、上京ということをここでは盛り込まなくてはならないと思う。
- ・そういう意味で、他の要素も合わせて4番目を少し噛み砕いた表現は考えられないか。例えば、「千年の知恵と絆に 新しい力が織りなすまち」、ではどうか。
- ・「織りなす」という言葉は、西陣ということもあるので良いかなと思う。

#### 委員長

- ・私は、「町衆」という言葉は避けた方がよいと思う。「町衆」という言葉は、今の町人ではなく、京都の近世、中世の町人のことを「町衆」という定義になっている。この言葉は、そっちの方に引っ張られる。「千年の知恵」というのはよいと思う。

#### 委員

- ・歴史的なことも盛り込み、それだけでは先に進まないで、「新しい力が織りなすまち」ということでどうか。

#### 委員長

- ・絆と言う言葉は分かるのか。ちょっとニュアンスが掴みにくくないか。

#### 委員

- ・若い子の歌で「キズナ」という歌が流行って、子供たちが小学校の卒業の時に使われていて、意外とイメージはある。

#### 委員長

- ・そういうことであれば安心である。

#### 委員

- ・若い人が「きずな」「つながり」という言葉を多用している。

#### 委員長

- ・若い人達は「絆」を「きずな」と読めるか。

#### 委員

- ・意外と知っているのではないかな。

委 員

- ・「絆」という意味を若い人も知っていると思う。

委 員

- ・子供も知っている。

委 員

- ・「絆」のイメージはどの年代でもそれぞれ持っているイメージは違うかもしれないが、子供たちも「つながる、みんなの思いを一つにする」ということは理解していると思う。

委 員

- ・高齢化も進んでいるので、若い力を活かすまちづくりということを前面に打ち出せたらと思う。

委 員

- ・「知恵と文化を活かすまち 上京」というように短い方がよい。難しく考えない方がよい。

委 員

- ・キャッチコピーは分からないが、区長がおっしゃった区と地域ということと、先輩方と若い人ということを含めたい。

委 員

- ・「絆」という言葉は入れて欲しい。本当にもう一度「絆」を見直してもらいたい。このままいくと切れてしまって、後が続かないのではないかと現場でヒシヒシと感じている。
- ・知恵と文化を活かすということにつながる「絆」を含め込んでもらいたい。

委員長

- ・これはいつまでに決めなくてはならないのか。

事務局

- ・基本計画は 12 月には策定ということになる。本日の委員会で、概ねの方向を決めて頂ければと思う。

委員長

- ・何か良い言葉でパッと出来ればよい。理念はあっても言葉で如何に表現するかということである。
- ・「織りなす」という言葉は、上京にしか使えない言葉ではある。「知恵」と「文化」だけであれば、各区でも言えることである。上京の特色を入れて、なおかつ、若い世代と上の世代とのつながりを持つ言葉ということ。
- ・時間があれば、区民に公募することも考えられるが、時間が無いということであれば、決めなくてはならない。

副委員長

- ・イメージを湧かそうと思うと、1 番目の千年の営みということもイメージが出てくるし、市、区、地域ということを含めると上の知恵と文化ということがよいと思ったのだが、皆さん、如何か。

委員長

- ・ちょっと長すぎる。

副委員長

- ・短くするということか。「はんなり上京」この言葉も良いと思う。

委員長

- ・「千年の営み 知恵と文化を活かすまち」は、これは京都を示していて、上京区ではない。東山区もそうだし、京都の歴史は全て千年の営みである。上京の特色を入れるということであれば、もう少し違う言葉を入れた方がよい。

委員

- ・「絆」で織りなすということだ。「絆」は地域のことも意味し、あらゆることにつながる。

委員

- ・「絆」は入れなくてはならない。

委員長

- ・「雅」という言葉を止めて、「絆」を持ってくることも考えられる。

委員

- ・「絆織りなす上京」ということか。

委員

- ・「はんなり上京 絆で織りなす 住みよいまち」ではどうか。

副委員長

- ・全ての要素が入っている。

委員

- ・「はんなり上京 絆で織りなす 住みよいまち」。「絆」はひらがなでもよいかもしれない。

委員長

- ・漢字の方がよい。糸偏が二つ入っているところがよい。若い人に浸透しているならば、これくらいは読んでもらいたい。
- ・「はんなり上京 絆で織りなす 住みよいまち」で、「はんなり」を最後に持ってくるか、あるいは「住みよいまち 上京」としたい。「はんなり上京」が頭にくると、少し重たいイメージがある。
- ・「絆で織りなす 住みよいまち 上京」ではどうか。「はんなり」が抜けるが、「はんなり」は上京の特色ではない。京都全体を示す言葉である。そうだったら、それを取ってしまってもどうか。「絆で織りなす 住みよいまち 上京」を、一つの案として決めたい。

（４）進捗管理と達成度指標について

委員長

- ・テーマ４の地域振興の中で、取組に「学区や小学校を拠点とした魅力ある教育環境の整備促進」に取組例として「小学校・中学生が和服に親しむことの出来る環境づくり」があり、委員が関わられているとのことだが、感想を聞かせて欲しい。

委員

- ・まだこれからのところで、今、議論の途中である。上京の西陣の着物をもっと根付かせるためには、若い人から、小学生、中学生から関わってもらい、その親御さんたちに興味を持ってもらうことかと思う。
- ・それで、小学生たちに教えるためには、今の大学生が今度教える立場になるようにということで、まずそこから広げていこうとしている。

- ・ただ、着物のことなので、今は着物がないということで、どのようにしたらサポートを受けられるかということを考えている。

#### 委 員

- ・着付けのための3回の講座を予定しており、その案は既に出来ているようだ。そのサポートをしている。これをやりながら、子供たちに出来れば学校の枠の中で、あるいは土曜塾か何かで、着付け教室をやっていきたいと思っている。そのための、子供用の着付けの練習用の着物をどうやって調達してくるか、というところで議論している。
- ・着物が準備できれば、着付けをやって下さる方は上京の中にどこにでもいらっしゃるの、やっていけるのではないかと考えている。

#### 委員長

- ・なぜ質問したかという、非常に効果が大きいからというのがある。ある委員会で、若い人を引き付けるのは実際に着てもらった方が良いということであった。西陣もあることなので、タイプアップされて取り組んで浸透していけば、これは一つ目玉になると思う。是非、推し進めて欲しい。
- ・今、進捗管理の説明があり達成度の指標についても問題となってくるが、この辺についてご意見を頂ければと思う。
- ・26 頁に達成度の数字が出ているが、これは京都市の例を参考にされている。自治会加入率を75.6%から80%へとあるが、この5%にどのような意味があるか、むしろ知りたいところである。このように数値で指標をだせるのか、出すことにどれだけ意味があるのかということは問題になると思う。
- ・いずれにせよ、上京ではまだやっていないことであり、京都市の例をそのまま引っ張っているとのことである。
- ・数値を出すには、手間がかかるのか。

#### 事務局

- ・上京区の自治会加入率については、昨年度にアンケートをして、割り出している。住民基本台帳ベースとの比較も行っている。ただ、実際の国勢調査ベースだともう少し下がってしまう。
- ・この数字はまだ掘めた方だが、他についてはかなり無理をして出している。

#### 委員長

- ・数字を出しても、「ああ、そういうことか」ということになるのではないか。

#### 委 員

- ・数字を出すことで、自治会でもトップの方は加入率がどれだけ低いかということは分かっているが、区民の方が地域から離れているということを感じてもらえると思う。

#### 委員長

- ・正しい数値というのは出るのか。

#### 事務局

- ・自治会加入率は、正しい数字が出ている方である。それ以外については、かなり苦しい部分がある。

#### 委 員

- ・自治会加入率については、完全に出そうと思えば出せる。他は難しいのではないか。

#### 事務局

- ・他の数字については、たまたま本年度、市の方が基本計画を策定したので、その数字を割り戻して求めている。ただし、5 年後その数字がどうなのか。どれだけ進んだのかと言われると、把握しにくい。

#### 委員長

- ・やってできるのであれば、参考になるので良いが。

#### 委 員

- ・加入率はすぐに求められる。

#### 委員長

- ・他に求めにくいものとして、どういうものがあるか。

#### 事務局

- ・例えば、安心安全で、交通事故を減らしましょうと言われても、なかなか数値として出しにくい。あるいは、火災をどれだけ減らしましょうということも同様である。

#### 委員長

- ・自治会加入率というのは、一番出しやすい。

#### 委 員

- ・具体的な取組に、「地域連携空き家事業」というのがあるが、すごく大切だと思うので、もしわかるのであれば、空き家となっているところやその予備軍というところを、数えることができるかといいのではないか。

#### 事務局

- ・悉皆調査をしなくてはならないかと思う。少し脱線するが、京都市の空き家率が平均 14%くらいで、上京区もほぼそれに近い状況である。したがって、10 軒に 1 軒が空き家となっている。
- ・65 歳以上でひとり暮らしの方が、同じように 10 軒に 1 軒くらいあるので、これから 10 年後を考えると、空き家は増えていくと想定できる。
- ・今年は春日学区をモデル学区として、どうすれば空き家に住んでもらえるのかということをも不動産業者も含めて、研究会を作っている。

#### 委 員

- ・加えて、上京区は他の区と比べて町家が多いという認識を、皆さんあまり持たれていない。大きな町家ばかり目立っているので気づかれていないようである。

#### 委 員

- ・どこまで町家というのか、定義がはっきりしない。木造であれば町家なのか。

#### 事務局

- ・都市計画局が行った京町家調査では、一定の要件を当てはめて調査をしている。

#### 委 員

- ・京都市景観まちづくりセンターに聞くと、かなりの労力を使ってデーターを集めているとのことである。

#### 委 員

- ・調査して、ほったらかして、調査してを繰り返している。どこまでが町家なのか、定義がある

のか。

委 員

- ・専門家とボランティアの方が1日に何十軒も回られた時に、言われたのが「うちは町家だと思っ  
ていませんでした」という人が結構多くいたということだった。そのPR効果だけでも良か  
ったということであった。

委員長

- ・いわゆる町家というのは、上京区に何軒あるのか。

事務局

- ・13 頁に都市計画局が行った京町家まちづくり調査の結果がある。上京区、中京区、東山区、  
下京区の中で、一番多く残っていて9,800 軒ほどある。
- ・ただ、良好な状態というのは、率が低くなっている。

委員長

- ・これは年々減っていくのか。

事務局

- ・減っていく。

委員長

- ・達成度の指標はどうするか。なかなか出しにくいところがあるので、追々、考えて頂くとい  
うことでよいか。出す、出さないということではなく、将来に向けて考えてもらうということに  
したい。

#### （５）今後の作業について

委員長

- ・ご意見は何かあるか。冊子作りに向けての後のスケジュールということである。

事務局

- ・冊子については、写真やレイアウトが今の状態から変更となる。概要版については市民しんぶ  
んの折り込みということで4 頁を想定している。

委 員

- ・計画だが、各テーマについて方針が記載されている。その中で、30 頁からの福祉と健康のと  
ころについて、ここで方針1 に福祉の人づくりがある。
- ・全体を見ると、現状がこうなので、こうしますという構成となっているが、福祉の部分だけ、  
現状の部分がなく、こういうことをするという構成となっている。それが気になっているとこ  
ろである。

事務局

- ・文章については、事務局から関係課に協議をさせて頂きたいと思う。

委員長

- ・他にご意見はないか。それでは、文章の最終的な確認については副委員長と私に一任して頂く。
- ・昨年の7 月から、42 頁の策定経過があるが、かなり積極的に取り組んだと思う。そのおかげ  
で、立派なものが出来るだろうと楽しみにしている。私としては、上京区が実際に作られたも  
のに如何に取り組めるか、絵に描いた餅ではなく、その餅を全部とは言わないが、可能なもの

から取り組んで頂いて、必要なところから実行していくことが、こういう計画の前提となっていることだと思う。是非、そちらに向けて行動して頂ければと思う。私自身も大変勉強になりました。ご協力頂き有難う御座います。

**副委員長**

- ・感謝するのみである。「暮らしが息づき伝統と文化が薫るまち」という大きなテーマの前区基本計画を思いだして頂ければと思う。皆さんにご協力頂き、文化、西陣、ふれあいをキーワードに今日まで様々な角度から取組を頂いた。その上で次期区基本計画についてのご議論を頂き、立派な冊子が出来ると確信している。本当に熱意を持ってのお付き合い、有難うございました。
- ・委員長がおっしゃったように引き続き、次期区基本計画の達成に向けてご尽力の程、お願いしたいと思う。

以上 議論終了